

令和6年8月（第1回）近江八幡市教育委員会定例会（要旨）

1. 開催日時 令和6年8月23日（金） 午前9時30分～午後3時00分

2. 開催場所 近江八幡市学校給食センター会議室

3. 出席委員

教育長	安田 全男
教育長職務代理者	重森 恵津子
委員	西田 佳成
委員	大更 秀尚
委員	圓山 淳子

4. 事務局出席者

教育部長	太田 明文
教育総務課長	岡村 祥子
教育部次長兼学校教育課長	富江 康子
教育部次長兼生涯学習課長	清水 和仁
子ども健康部次長兼幼児課長	村北 幸司
子ども健康部幼児課長補佐	澤 千央
教育総務課長補佐	夜野 友昭
教育総務課副主幹	竹浪 雄大

5. 会議を傍聴した者 7人

6. 会議次第

【議案】

- 議第10号 公私連携幼保連携型認定こども園運営法人との協定書（案）に係る意見について（非公開）
- 議第11号 令和7年度から使用する中学校教科用図書及び小中学校特別支援学級教科用図書の採択につき議決を求めることについて

7. 議事の経過

（1）開会（日程確認）

- ・教育長が8月（第1回）定例会の開会を宣言

・出席委員定数の確認

・日程について

承認

議案

○議第10号 公私連携幼保連携型認定こども園運営法人との協定書（案）
に係る意見について 非公開

(2) 会議録の承認

7月定例会の会議録

承認

(3) 教育長挨拶及び報告

去る7月28日に、任期満了に伴って、教育長職務代理者もお勤めいただいた安倍元委員が退任された。安倍元委員においては、長年にわたり校園所の現場はもちろんのこと、地域活動や数々の教育活動において、子ども目線で絶えず見守っていただき、本市の教育行政に多大な貢献をしていただいた。ここに改めて感謝を申し上げ、心から御礼申し上げます。

そして、翌日の7月29日に、新たに重森委員に就任いただいた。重森委員には、同日付けで私の方から教育長職務代理者として指名させていただいた。既に教育委員会委員の活動として、いろいろな学校現場等の活動にご参加いただいているが、教育委員会の会議への参加は、本日が初めてとなる。よろしくお願ひ申し上げます。

新たな体制となったが、引き続き「チーム教育委員会」として一丸となって、本市教育の推進に皆様のお力添えをお願いしたい。

(4) 議事

◆議第10号 公私連携幼保連携型認定こども園運営法人との協定書（案）に係る意見について（非公開）

【事務局説明】…教育総務課

【採 決】

公私連携幼保連携型認定こども園運営法人との協定書（案）に係る意見について
承認

◆議第11号 令和7年度から使用する中学校教科用図書及び小中学校特別支援学級教科用図書の採択につき議決を求めることについて

◎中学校教科用図書

○道徳

【事務局説明】

○学校教育課

本日ご説明させていただくのは、8月19日に開催された「滋賀県教科用図書第3採択地区協議会」において選定された教科用図書と選定理由になります。

道徳は、7社の教科用図書があります。現行は、「日本文教出版」です。このうち、見本本の送付があった6社について調査研究を行いました。協議会では、「日本文教出版」が選定されました。

それでは、選定理由を述べさせていただきます。

学習指導要領の目標を実現するためには、一人一人の生徒が自分自身の問題として捉え、「考え、議論する」授業等を通じて生徒の道徳性を育むことが大切になります。どの社の教科書も「話し合う」、「考え、議論する、深める」、「自分にかえり、見つめ直し、生かす」といった流れが形作りやすい構成になっており、教科書を通じてどのように道徳での学びを深めていくのかを、生徒に分かりやすく伝わるよう、丁寧に示されています。また、1年生では「裏庭でのできごと」といった題材のように、自分で判断し行動することについて考えさせる内容について、3年生では「二通の手紙」といった題材のように、遵法精神に係ることや社会のルールを守ることについて考えさせる内容について、どの社も共通して掲載されています。さらに、各社とも、二次元コードを使つての資料活用について改善されており、本文の朗読やワークシートを取り出すことのできるもの、関連動画の視聴ができるものなど、工夫がなされています。

それでは、それぞれの社の特徴となる部分について説明をします。

はじめに、東京書籍です。情報モラルや防災等、様々なジャンルが掲載されています。2年の183ページをご覧ください。巻末の付録3つがSDGsと関連する教材であり、全学年に掲載されています。一方、写真や挿絵、図表等、教材を読み深めていくための資料は充実していますが、ページに占める割合が大きく、内容を読み深める際に、注意が資料に向きすぎることが考えられます。

次に、教育出版です。2年の21ページをご覧ください。各教材の最後に「学びの道しるべ」があります。自分の考えを出し合ったり話し合ったりする活動が示されており、多様な考えに触れられるようになっています。114ページをご覧ください。視覚的に生徒の興味・関心を喚起する漫画や絵本を用いた教材、写真から考える教材等、多様な教材が掲載されており、「読む」ことの負担を軽減し、話し合い活動に参加しやすくなるよう工夫されています。

光村図書の1年の80ページ、135ページをご覧ください。「人権問題」と「環境」について、各学年でコラムとして取り上げており、SDGsとの関

連が示されたり、学年が上がるごとに身近なものから社会全体に関わるものへと広がっていきつたりします。84ページの「やってみよう」のページでは、体験的活動として役割演技や問題解決的な学習として問いを立て、話し合いながら考える活動が提示され、生徒の多様な考えを生かすための言語活動が設定されています。

日本文教出版では、35教材と付録がセットになっており、資料が豊富で、1時間の流れが見通しやすい配置になっています。2年の69ページをご覧ください。課題に対して、ペアトークやグループトークができるように設定されています。「学習を深めるヒント」において、タブレットを活用したより効果的な考えの深め方、思考ツールを使った議論の方法が示されており、より充実した言語活動が期待されます。さらに、心の成長を記録する「道徳ノート」が別冊で用意されており、発問欄は空欄であることから、授業スタイルや生徒の実態に合わせて柔軟に設定でき、たいへん有効に活用できます。

学研については、SDGsや情報モラル、防災等の現代的な課題に対して、発達段階に応じ、全学年で積極的に取り上げられています。2年の28ページ、108ページをご覧ください。漫画やイラスト等のバラエティに富んだ素材があり、興味を持たせる工夫がされています。一方で、家庭生活や地域社会に関わりのある教材の掲載が、やや少なく思われます。

あかつき図書は、人間の良さや気高さ、素晴らしさを感じることでできる教材が多く取り入れられています。心情や情景を丁寧に表していますが、文章量としては、やや長文になっているものがあります。また、生徒が教材により学びを進める中で、他の人の多様な考え方に触れる機会の設定が、やや少ないといえます。

【質問意見等】

○圓山委員

日本文教出版は、感謝の言葉があふれる話となっている。

3年には、「川端のある暮らし」ということで、滋賀の水文化のことが書かれているのも良かった。

また、「町内会デビュー」について書かれており、他社にもあるのはあるが、特に社会の一員として中学生に知ってもらいたいことが書かれていて、とても良いと思った。

○西田委員

圓山委員と同じ意見になるが、日本文教出版には町内会のことが書かれており、こういう話題は大事だと感じている。

また、付録の冊子があるのがありがたい。自分の意見等をここに記載できれば、振り返りがしやすく有効的であると思う。

○大更委員

他にも探せば、別途購入できるのかもしれないが、元々別冊で付いてくるの

がとても良い。自分の振り返り、掘り起しということで、最後に棒グラフで丸を付けるところがあり、自分で評価することができるのではないかと。

【採 決】

道徳は、日本文教出版の「中学道徳 あすを生きる」を採択することに決定
(全員賛成)

○国語

【事務局説明】

○学校教育課

国語は、4社の教科用図書があります。現行は、「三省堂」です。協議会では、「三省堂」が選定されました。

それでは、選定理由を述べさせていただきます。

国語科は、1年生の教科書をもとに、出版社ごとに特徴を説明いたします。

はじめに、東京書籍です。204ページ、205ページをご覧ください。教材ごとに「てびき」があり、学習を「見通す」ための目標や学習の流れが示されています。目標には、イラストの生徒の発言を使って、気づきや疑問を述べているところがあり、生徒が課題意識を持って学習に取り組めるように工夫しています。また、204ページの下にあるように、学習のポイントを「言葉の力」という囲みで示し、生徒に分かりやすく明示し、3年間で学習に生かせる力が系統的・段階的に身につくようになっています。

次に、三省堂です。44ページから開いて46ページをご覧ください。各学年で初めて説明文に取り組む前に、読み方を学べるようにプレ教材として、短い説明的な文章が配置されています。ここで学んだ読み方を、48ページからの「クジラの飲み水」で生かし、生徒が主体的に学習を進めていくことができる流れになっています。説明的文章において、このようなプレ教材は、確かな読み方を身につけるのに有効です。このような工夫を施しているのは、三省堂のみです。また、裏表紙をめくっていただいたところで、一覧にある「読み方を学ぼう」では、読み方の技やコツが3年間で22種類示されています。簡潔な文章での解説に加え、イメージを図で示し、国語だけでなく、他教科の学習、自主的な読書、表現活動でも活用できるようになっており、使いやすくなっています。

次に、教育出版です。246ページ、247ページをご覧ください。教材に入る前に学習する「学びナビ」があり、生徒が考えたり話したりする際にポイントとなる事柄が、図等を交えて示されています。ただし、プレ教材としては、長文であったり、難解な内容であったりするので、本教材に入る前に興味関心が薄れることも考えられます。80ページをご覧ください。右下に二次元コードがあり、学習を補完する動画につながるようになっています。しかし、この

二次元コードが何につながるのかの説明がないため、分かり難く使いづらいのが難点です。

最後に、光村図書です。267ページをご覧ください。「語彙ブック」があります。各学年の巻末にブックインブックの形で配置されています。学年の学習内容と関連付けながら、描写や言動、思考に関する語句が多数紹介されており、段階的に語彙を豊かにすることができるようになっています。220ページ、221ページをご覧ください。学習の流れが見通せる「学びへの扉」のページと、その教材で身につける資質・能力を焦点化・可視化した「学びのカギ」のページを見開き2ページで示しています。生徒が学習内容を理解し、主体的に学びを深められるように構成されています。

このようなことから、三省堂が選定されています。

【質問意見等】

○大更委員

三省堂の「読み方を学ぼう」は、学び方を学ぶということで、中学一年生の場合、この教材が最初に入ってくるので、生徒にとって分かりやすく、取り掛かりやすいと思う。また、資料も豊富で見応えもある。

○重森委員

とても時間をかけて選んでいただいているであろうことに感謝する。

一つ気になったのだが、原稿用紙の使い方についての記述があって、生徒の名前を書く部分があるのだが、三省堂だけが名字と名前の間を一文字分空けておらず、他社は名字と名前の間を一文字分空けている。その違いは、異なる教科書で学んだことでどうなるか。書写の教科用図書についても、三省堂は名字と名前の間を空けていないが、他社は空けている。この採択結果についてどうこうという意見ではないが、運用していく上で、生徒に指導する際に一言説明した方が良いのではないかと感じた。子どもが混乱しないかが気になる。

○学校教育課

その際には、気をつけるよう対処する。

【採 決】

国語は、三省堂の「現代の国語」を採択することに決定
(全員賛成)

○書写

【事務局説明】

○学校教育課

書写は、4社の教科用図書があります。現行は、「東京書籍」です。協議会では、「光村図書」が選定されました。

それでは、選定理由を述べさせていただきます。

6 観点を中心に教科書を比較し、見本の字形や見本の数、毛筆や硬筆の練習をするときにどのような教科書が練習しやすいか、授業時の生徒の学習活動が充実するかどうか注目して調査されました。総合的に判断すると、教育出版は特殊なサイズで扱いにくさがあること、東京書籍は必要なことがシンプルにまとめられているものの、50分の授業時間内に完結できない紙面構成となっていることから、三省堂と光村図書の2社が候補として絞られました。

ここからは、この2社を比較し、説明させていただきます。

はじめに、三省堂です。32ページ、33ページをご覧ください。大きなフォントで、説明の文言も絞られており、すっきりと見やすく配置されています。34ページ、35ページ等、見開き右側に解説、左側に手本という構成となっており、ポイントをおさえた上で実技ができます。硬筆・毛筆ともに字の線は細いですが、すっきりとした字形です。しかし、毛筆の楷書、行書ともに少し手本が少ないと感じます。

次に光村図書です。全体的に余白が多く、すっきりとした構成となっています。54ページ、55ページをご覧ください。「①考えよう」で気づきを促し、「②確かめよう」、「③生かそう」と続く構成となっており、書写の基礎基本は、しっかりとおさえられるようになっています。また、朱書きの部分では筆遣いが丁寧に表されており、毛筆の行書では重要なポイントである気脈が分かりやすくなっています。

また、96ページでUDフォント、98ページで防災、141ページでSDGsに触れるなど、現代的な課題についても扱われています。

42ページ、43ページをご覧ください。このような半紙サイズの見本が多く掲載され、横の小さな朱書きにより筆先の通る部分がよく分かるよう工夫がなされています。

このようなことから、光村図書が選定されています。

【質問意見等】

○大更委員

光村図書出版は、硬筆を含め、実際に練習できる部分が多い。他社も同様にあるものの、比較すると少なく、いわゆる教科書だけという印象である。

○西田委員

各社とも素晴らしいが、光村図書出版は、パソコンの活字があふれる中において、開いたときの印象として、手書きの良さが伝わり、何か良いなと感じる構成であった。

【採 決】

書写は、光村図書出版の「中学書写」を採択することに決定
(全員賛成)

○地理

【事務局説明】

○学校教育課

地理については、4社があります。現行は、「帝国書院」です。協議会では、「帝国書院」が選定されました。

それでは選定理由を述べます。

4社全てで評価が高かったのは、観点④です。各社とも授業のはじめに適切な「学習課題」が設けられており、資料をもとにした問題解決的な学習や言語活動の活性化ができるようになっていきます。各社の特色や工夫を調査した上で、総合的に評価が高かった帝国書院と東京書籍を中心に説明いたします。

まず、2社ともに、小学校からの系統性は、重視されています。また、文字はユニバーサルデザインフォントを使用し、色覚特性にも配慮されたデザインとなっており、写真や挿絵、統計資料も鮮明で工夫されています。こうしたことから、観点①と観点⑤は、A評価となっています。

次に、評価に差があった観点について述べます。

はじめに、観点②についてです。帝国書院、2ページ、4ページ、6ページをご覧ください。単元のはじめに設定している「1章の問い」が、節のはじめにも改めて明示されていて、学習のねらいがぶれることはありません。また、文の書き出しが写真や資料と関連する記述となっています。帝国書院の74ページ、東京書籍の86ページをご覧ください。帝国書院では、航空機の写真があり、地図は国際分業の様子がよく分かる資料です。本文の書き出しも「航空機」に関する内容となっています。東京書籍は、82ページに航空機の図が載っています。産業に関する話題がページをまたがっており、やや使いづらい印象があります。こうした点から、帝国出版が評価されました。

次に、観点③についてです。東京書籍の巻頭3ページをご覧ください。「持続可能な社会の実現に向けて」というテーマのもと、現代社会を捉える5つの視点を示しています。142ページをご覧ください。世界の学習の終わりには「地球的課題を振り返ろう」と設定しています。269ページをご覧ください。第4章で「持続可能な地域の在り方」として、持続可能な社会の実現を大きなテーマとして貫いています。帝国書院の表紙をめくって巻頭のページをご覧ください。見開きには、大きくSDGsを取り上げています。次に、150ページ、156ページをご覧ください。特設ページとして、「アクティブ地理」や「未来に向けて」というコーナーを多く設定しており、対話を活発にさせる工夫が見られます。観点③については、東京書籍が評価されました。

次に観点⑥です。東京書籍の209ページをご覧ください。近畿地方の学習では、琵琶湖の写真が掲載されています。また、前回に課題であった二次元コードが各所に配置され、巻末に「デジタルコンテンツを活用しよう」と題して

活用について分かりやすく紹介され、家庭学習に結びつくものと考えます。帝国書院の200ページをご覧ください。近畿地方の導入で、最初に琵琶湖が取り入れられており、204ページ、205ページに、滋賀県の環境に対する取組を含んだ内容が扱われています。左上の琵琶湖疎水の写真は琵琶湖と京都との関係を知ることができ、右の写真は琵琶湖を含む京阪神の環境への取組も学べる教材として適切であるといえます。この点についても、帝国出版が評価されました。

このようなことから、帝国書院が選定されています。

【質問意見等】

○圓山委員

帝国書院は、写真や地図が大きく、きれいで分かりやすくて良いと思う。

○西田委員

帝国書院の204ページ、205ページで、環境について滋賀県が取り上げられているのは良いと思う。滋賀県では琵琶湖が密接に関係しているので、小学校で「うみのこ学習」を経た後に中学校で学ぶのにふさわしいと思う。

○大更委員

地図上のフォントが、帝国書院のものが見やすい。

防災・災害の記述は各社できちんと書かれており、地理の教科書ではあるが、全教科書を評価したい。

【採 決】

地理は、帝国書院の「社会科 中学生の地理」を採択することに決定
(全員賛成)

○地図

【事務局説明】

○学校教育課

地図については、2社の教科用図書があります。現行は、「帝国書院」です。協議会では、「帝国書院」が選定されました。

それでは選定理由を述べます。

観点①、④、⑤については、両社ともに高い評価となっています。

観点①については、両社とも地形、地名、土地利用等を様々な記号で用いて表現している「一般図」、工場分布や交通等の個別の主題を取り上げ、調査資料や統計等を活用してグラフ化したりする「主題図」が適切に配置され、地理的な見方・考え方を育むものとなっています。

観点④については、いずれの地図帳も話し合い活動がしやすい構成になっています。東京書籍は課題解決学習が設定しやすい資料の配置となっており、帝

国書院はテーマをもとに豊富な資料をまとめやすくしています。

観点⑤については、両社とも写真や資料が豊富で鮮明でした。また、文字や配色がユニバーサルデザインに配慮されたものとなっていて、刺激が少なく、学習に集中しやすいものとなっています。東京書籍は、地図記号の他に主な産業や郷土料理等が多数イラストで示されていて、地図帳に興味を持って学習することができます。帝国書院は、日本の地図について、色彩も黄緑色やピンク色を多用して文字が読みやすい工夫があり、田や果樹園等の土地利用を色分けされています。

次に評価に差がついた観点について述べます。

観点③です。東京書籍の8ページをご覧ください。SDGsの全体像が分かりやすくまとめられ、地図帳中の14か所に関連付けがなされています。13ページから16ページまでをご覧ください。現代の諸課題を取り上げて、統計資料や写真をもとに学習できるように構成されています。帝国書院の8ページをご覧ください。SDGsの全体像と次ページ以降の内容との関連付けが分かりやすくまとめられています。9ページから14ページまで、159ページから162ページまでには、環境や資源、食料や難民、自然災害等の様々な問題をSDGsと関連付けてテーマごとに掲載し、現代社会の課題について、自主的・自発的な学習に結びつくものになっています。まとめ方についても、帝国書院が評価されています。

次に、観点⑥です。東京書籍の138ページをご覧ください。信楽焼が取り上げられていて、生徒が滋賀県の文化に目を向ける配慮が見られます。帝国書院の115ページをご覧ください。琵琶湖の水利用や透明度の変化が示されています。また、196ページの下には、滋賀県の手話表現が紹介されています。こうしたことから、帝国書院が評価されています。

このようなことから、帝国書院が選定されています。

【質問意見等】

○大更委員

地図がより見やすいのは、帝国書院の方かと思う。そして、目に優しい。写真については、両者ともに豊富で、資料として卒業後も使っていただけるのではないかと思う。表紙の材質も、長期利用に耐えうらと思う。

○重森委員

大更委員と同感で、開いたときに地図が見やすく落ち着けるのは、帝国書院である。

○西田委員

二人と同意見だが、これは個人的な感覚かと思うが、一見すると東京書籍は情報量が多く見える。多いのは良いのだが、やや見にくく感じてしまった。

○圓山委員

帝国書院の教科用図書の表紙の加工について、長持ちするのは良いと思う

が、今ノートの上に置いていたのだが、ノートの鉛筆の跡が表紙に写ってしまった。消しゴムですぐに消えたが、今後の更なる改善点かと思う。

【採 決】

地図は、帝国書院の「中学校社会科地図」を採択することに決定
(全員賛成)

○歴史

【事務局説明】

○学校教育課

歴史については、8社の教科用図書があります。現行は、「日本文教出版」です。このうち、見本本の送付のあった7社について調査研究を行いました。協議会では、「日本文教出版」が選定されました。

それでは選定理由を述べます。

調査結果にありますように、観点によって大きく評価が異なりますので、総合的に評価の高かった東京書籍、帝国書院、日本文教出版を中心に説明させていただきます。3社は、観点④は全てA、観点⑥は全てBでしたので、差のあった観点②③⑤について比較させていただきます

観点②です。日本文教出版は全体の構成が99単元で設定されており、「まとめと振り返り」や「調べ学習」等を含めても、余裕を持って授業を進めることができます。64ページから67ページまでをご覧ください。各編の最初に見開き大の資料があり、ページをめくると「地図で見る世界の動き」を掲載し、学習内容の位置付けや全体像が把握できるよう配慮されています。これは、他社にない工夫点です。帝国書院の98ページから101ページまでをご覧ください。文化を扱った部分が4ページあり、写真や資料も充実しています。

次に、観点③です。日本文教出版の294ページから299ページまでをご覧ください。ここでは、災害の歴史、政治参加の歴史、世界平和への取組等、テーマを設定して深く探究する課題があります。129ページ、165ページをご覧ください。伝統文化、国際交流、災害復興等に取り組んだ先人を紹介する「先人に学ぶ」コーナーがあります。185ページをご覧ください。歴史の裏に隠れがちな女性の姿を紹介する「各時代の女性」を紹介するコーナーがあるなど、多くのことが取り上げられています。

次に、観点⑤です。3社とも、ページの右端には各単元の時代と世紀を表す物差しがあり、どの時代を学習しているのか確認できるようになっています。日本文教出版では、図版と本文のバランスが良く、地図や資料も比較的大きめで適切に配置されています。292ページをご覧ください。テーマ別の索引があり、学んだことを効率よく振り返り、現代の諸課題の成り立ちや変遷を調べることができるように工夫されています。また、節のはじめのイントロダクシ

ョンムービーや各单元中にデジタルコンテンツが設定されており、学習の見通しや興味関心を持ちやすいようになっています。東京書籍の170ページをご覧ください。单元冒頭部の人物等の写真や絵が美しく、サイズも大きめで、学習に対する興味関心を持てるよう工夫されています。本文中の記載事項に関する資料には番号が記載されており、すぐに資料に目を移すことができます。教科書全体の色合いも落ち着いたパステル調で温かみがあります。また、各社とも巻末に年表がありますが、日本文教出版の年表が最も充実しており、日本と世界のできごとのつながりが分かりやすく表記されています。

以上のようなことから、総合的に見て、日本文教出版の教科書が高く評価され、協議会において選定されました。

【質問意見等】

○大更委員

大体見開きが1時間(50分間)の学習になることが多いと思うが、それから行けば各社ともその学習の最後に確認ができるので分かりやすい。

年表は、日本の歩みと世界の動きの間に、海外とのつながりということで、世界が日本にどのような影響を与えたかということが矢印によって分かりやすく表現されている。歴史の勉強は、世界の歴史に関連付けて学習することが大事だと思うので、工夫されていることを評価したい。

○圓山委員

どれも見やすいが、目の悪い私としては、日本文教出版が文字も写真もイラストも、特に見やすかった。

【採 決】

歴史は、日本文教出版の「中学社会 歴史的分野」を採択することに決定
(全員賛成)

(5分休憩)

○公民

【事務局説明】

○学校教育課

公民については、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の6社があります。現行は、「東京書籍」です。協議会では、「東京書籍」が選定されました。

それでは、選定理由を述べます。

公民では、各社ともに特長や工夫が見られましたが、中でも、東京書籍、日本文教出版、帝国書院が高評価となりましたので、この3社を中心に説明いた

します。資料は、37ページです。

まずは、3社全てで評価が高かった観点①、③、④について、簡潔に説明申し上げます。

観点①です。帝国書院の2ページから3ページまで、30ページから31ページまでをご覧ください。単元の導入段階では、見開き2ページにわたるイラストを用いて自ら違いや課題を見つけられる工夫があります。26ページをご覧ください。単元の終わりには「探究学習への準備」というコーナーで、課題探究学習ができるようになっています。

観点③です。各社とも「現代的な課題」が広く扱われ、コラムや特設ページの中で、様々な現在の社会的課題を取り上げています。東京書籍の175ページをご覧ください。石川県能登町を例に「限界集落と観光業」について考えさせるコラムとなっています。

観点④です。日本文教出版の34ページをご覧ください。単元の終わりに「チャレンジ公民」を設け、ダイヤモンドランキングやベン図等の様々な思考ツールが紹介され、それを活用しながら他者と意見を交流したり記述したりして、豊かな言語活動ができるようになっています。こうした工夫は、各社で見られました。

次に、評価に差がついた観点について説明いたします。

観点②です。帝国書院は、記述内容の組織、配列とも適切な上に、文章量や写真等の資料等が適切で、レイアウトに統一感があり、生徒にとって学習しやすいものとなっています。また、215ページをご覧ください。第5部として、たくさんの「課題探究学習」の例が示されており、高等学校での学びにつながる内容となっています。こうしたことから、帝国書院を評価しています。

観点⑤です。それぞれの出版社が単元ごとにページのベース色を変えたり、文字の大きさやフォントにも工夫したりするなど取り組んでいます。特に、日本文教出版は、写真やグラフが豊富で、大きさも適切であり見やすいです。また、40ページ、42ページをご覧ください。漫画で生徒の興味を引く工夫がされています。57ページをご覧ください。実際に点字が使われていて、点字を体感できるようになっています。東京書籍については、各時間の学習に対して二次元コードが付してあり、学習に広がりや深まりが期待できます。こうしたことから、東京書籍と日本文教出版を評価しています。

観点⑥です。東京書籍の118ページをご覧ください。地方自治の学習において、中学生の声を政治に反映させている少年議会の例が載せられていたり、左下の表には、住民投票の例として、滋賀県旧米原町が含まれていたりしています。最後に、218ページから221ページまでをご覧ください。まとめとなる章で、大きく近江八幡市が取り上げられています。生徒が地域の課題を自分事として捉え、その解決を考えるような構成となっています。こうした点から、東京書籍を評価しています。

以上の点を踏まえ、公民の教科書につきましては、東京書籍が選定されまし

た。

【質問意見等】

○圓山委員

公民の教科書は、娘と一緒に見せていただいた。東京書籍に八幡堀が載っていることに興味を示していた。子どもたちも自分のまちに誇りを持てると思うので、掲載していただき感謝したい。

○大更委員

近江八幡市について、SDG s の例として取り上げていただきありがたい。また、色遣いが優しく、落ち着いて見える。

そして、ページの中心部分にメインとなる文章があり、両側に写真や詳しい説明等があり、見やすく分かりやすいと思う。

○重森委員

東京書籍の裏表紙を見ると、どの科目にも書かれているようだが、「色覚特性に合わせて作られている」とのことが書かれており、大更委員のおっしゃった「落ち着いて見える」というのは、これのためなのかなと思った。このことが書かれているのは、東京書籍だけであったかと思う。

○西田委員

教科書に自分のまちが載っていると、子どもたちにとって、自分のまちとともに教科書にも愛着がわくのではないかと思う。

【採 決】

公民は、東京書籍の「新編 新しい社会 公民」を採択することに決定
(全員賛成)

○数学

【事務局説明】

○学校教育課

数学科は、7社の教科用図書があります。現行は、「大日本図書」です。協議会では、「東京書籍」が選定されました。

それでは、選定理由を述べさせていただきます。

はじめに、各教科書の特徴を述べます。

まずは、学校図書です。各章末に、学んだ成果や更に深めたいことについて振り返ることができるように工夫されています。全体的に色遣いが鮮やかで、情報量が多く、説明が丁寧な教科書です。

次に、教育出版です。巻末に「学びのマップ」というページがあり、学習内容の系統やつながりが明記され、理解すべきことが把握しやすくなっています。1つの単元を「事前の準備、学習、振り返り」という流れで学習を進める

ことができます。

次に、数研出版です。登場人物の会話をヒントにしなが、多様な考え方を生かす言語活動に結びつくように構成されています。全体的にシンプルなつくりで、数学的な概念が分かりやすく説明されています。

次に、日本文教出版です。新しい章に入る前に、既習内容について要点と確認問題が設けられ、項ごとに「めあて」が設定されています。巻末には振り返りシートもあり、スムーズに学習を進める工夫がなされています。

ここからは、これまでの4冊より評価の高かった大日本図書、啓林館、東京書籍について、教科書を用いてご説明します。1年生の教科書をご準備ください。

はじめに、大日本図書です。1時間で学ぶ内容が、基本的に見開き2ページになっています。95ページをご覧ください。右上には過去に学習した内容が示されており、学習のつながりを確認できます。106ページをご覧ください。その時間に学ぶ内容が、「考えよう」と「めあて」で示されています。また、「たしかめ」、「Q」、「プラス・ワン」と段階を追って問題に取り組むことができるように構成されています。120ページをご覧ください。各章の「活用問題」では、学習の流れが示されています。

次に、啓林館です。94ページをご覧ください。「例」、「例題」、「問」、「練習問題」等が98ページまで続いており、順を追って学ぶことで、知識・技能が確実に身につくよう構成されています。83ページをご覧ください。課題に対して、ステップ1、2、3のように、スモールステップを意識した構成となっています。また、「話し合おう」や「説明しよう」のように、問題解決的な学習や多様な考え方ができる課題が多くあります。

最後に、東京書籍です。98ページをご覧ください。左上に「方程式を効率よく解く方法を考えてみよう」とありますが、小さい節ごとに「めあて」が示されており、学ぶ内容が把握しやすくなっています。授業の最後には、99ページの下のように、「クイックチェック」として自ら確認できる問題があります。また、必ず解けるようになりたい問題には、ハートマークがつけられています。協議会の中でも、東京書籍は見やすく分かりやすいという意見がありました。

続いて、2年生の教科書を用いて比較します。中学生になると数学を苦手とする生徒が増えていきますが、学年が変わると新鮮な気持ちで取り組む生徒も多くいます。大日本図書の12ページ、啓林館の12ページ、東京書籍の11ページから13ページまでをご覧ください。2年生の一番はじめの単元です。大日本図書はトラックの各レーンのスタート位置の差を求める問題、啓林館は地球の周りに高さ1mの道路を作ったときの道のりと赤道の長さの差を求める問題、東京書籍は数あてゲームのしくみを探る問題となっています。

大日本図書と啓林館は、ともに円周を求める必要があるため、円周率の「 π 」や「3.14」を使用して課題を解決していきますが、数学が苦手な生徒にと

っては、それだけでハードルが高くなります。興味を持って主体的に取り組めるのは、東京書籍であると考えます。ちなみに、東京書籍では、トラックの問題が27ページに登場し、発展的な学習として位置付けられています。紫色で示されている「学習の流れ」も、シンプルで分かりやすくなっています。

このようなことから、東京書籍が選定されています。

【質問意見等】

○大更委員

確かに東京書籍は、スモールステップというのか、ハートマークが付いており、「これについては、皆が解けるようにしましょう」、「少し力を付けてきたら、次のこの問題に進めますよ」、「もっと突っ込んで学びたいということであれば、深い学びというような問題で、より高度に学習できますよ」ということになっている。他者も確かめ問題や練習問題、応用問題ということで段階を踏んでいるが、東京書籍がより分かりやすいステップになっていると感じた。

○重森委員

私の感想としては、数学の教科書を全て見せていただいたときに、私はそれほど数学の勉強が好きではないのだが、東京書籍が一番学ぶ意欲を持てるような構成になっていて良いと感じた。

○西田委員

東京書籍の3年を見ていたのだが、問題の数が他社よりも多いようであった。中学3年となれば受験を控えているので、この問題数の多さは良いと思う。

○圓山委員

重森委員と同意見である。

【採 決】

数学は、東京書籍の「新編 新しい数学」を採択することに決定
(全員賛成)

○理科

【事務局説明】

○学校教育課

理科は、5社の教科用図書があります。現行は、「啓林館」です。協議会では、「啓林館」が選定されました。

それでは、選定理由を述べさせていただきます。

学習指導要領において、理科では、「科学的に探究する力を身に付け、探求しようとする態度を育成する」ことが重視されています。ここでいう「探求」とは、自らが課題を見つけ、課題解決のために見通しをもった観察・実験を行い、結果から考えたことを図表に表したりグループ発表したり、高め合い、最

後には振り返りを行って知識を広げていく活動のことをいいます。どの教科書も学習指導要領に沿って子どもの学力を伸ばすために必要な内容や表現がされていましたが、理科の目標にある「探究活動を進める」という視点から、東京書籍と啓林館が高い評価となりました。

この2社について、2年生の教科書を用いてご説明します。

まず、東京書籍の③ページから1ページにかけてと、啓林館の④ページをご覧ください。探求の流れが書かれたページであり、どちらも「疑問」から「課題」、「仮説」、「構想・計画」、「観察・実験」、「結果」、「考察」、「表現・振り返り」という順序で探究活動を深めていくことが明記されています。この流れに従って各単元で探求活動を進められ、生徒が取り組みやすくなっています。

次に、目次をご覧ください。東京書籍は6ページ、啓林館は9ページです。東京書籍は、単元に番号が振られていて、単元1から単元4まで表記されています。これは、啓林館を除く他の出版社も同じです。それに対して、啓林館には単元に番号がなく、全学年で「生命」、「地球」、「物質」、「エネルギー」と分かれていて、3学年とも同様の分け方になっており、学年が進んでも学習のつながりを意識できます。また、啓林館は、10ページにあるコラムのように「部活」や「料理」等があり、生徒の関心を高めるものになっています。

次に、東京書籍の88ページ、啓林館の6ページをご覧ください。顕微鏡の使い方が載っています。東京書籍は顕微鏡自体が大きな写真になっていて、啓林館は使い方が1から4までの写真で示されています。顕微鏡は小学校から使っているので、それぞれの名称よりも、使い方の復習ができる方が良いと考えます。顕微鏡で観察した結果の写真が、東京書籍では94ページ、95ページ、啓林館では8ページ、9ページにあります。啓林館は、ダイナミックな細胞の写真が目飛び込んでくると思います。全般的に啓林館の写真は鮮明で、見やすくなっています。観察・実験や実物が重要視される理科にとっては、写真の見やすさは大切なことと言えます。

次に、啓林館の35ページをご覧ください。「唾液のはたらき」の実験です。探究活動の進め方が示され、ページの下から3分の1くらいのところに「探求の振り返り」として295ページに誘導する矢印があります。295ページをご覧ください。ここを見ると、改めて探求の流れを確認することができます。さらに、1枚めくっていただくと、「探Qシート」が付いています。これは実験レポートの見本となるものであり、これを活用して一定の様式でまとめることで、生徒同士が話し合い活動がしやすくなります。

また、理科の目標の一つである「防災・安全教育の充実」という視点においても、啓林館の内容が充実しています。

このように、啓林館は、「見通しを持った観察・実験」や「実験レポートの作成」、「防災や自然災害に関する内容の充実」といった点で優れており、見やすさや分かりやすさ、学ぶための工夫が施された教科書だと評価されました。

このようなことから、啓林館が選定されています。

【質問意見等】

○大更委員

単元の配列について、どうしても1、2、3、4と振られるが、必ずしもその順で学習するとは限らず、例えば野菜であれば手に入りやすい時期に取り上げて学習したりする。そういう意味では、啓林館の教科書は、自由度が高く、抜きん出ていると感じた。

防災の記述や、サイエンスが日常生活のいろいろな場面で役立つということの記述が多いのも好印象であった。また、写真もダイナミックなものが多いと感じた。

○圓山委員

どの教科書もカラフルな写真が使用されており、わくわくする構成になっている。また、啓林館と東京書籍は、後ろに「学習する皆さんへ、保護者の方へ」ということでメッセージが掲載されており、「子どもと共に保護者も一緒に教科書を見て、科学の素晴らしさを実感してください」ということが書かれているのが良かった。

○西田委員

啓林館について、目次から拝見していても、単元ごとの写真にインパクトがあり、教科書を見る側のわくわくする気持ちに訴えかけてきて、さすがだと感じた。

【採 決】

理科は、新興出版社啓林館の「未来へひろがるサイエンス」を採択することに決定（全員賛成）

○音楽一般

【事務局説明】

○学校教育課

音楽は、一般的な音楽の教科書と、器楽とがあります。

まず、音楽一般です。音楽一般は、2社の教科用図書があります。現行は、「教育出版」です。協議会では、「教育芸術社」が選定されました。

それでは、選定理由を述べさせていただきます。

評価に違いのあった観点を中心に取り上げます。

観点②です。教育出版は、楽曲数が多く複数の教材や楽器を比較しながら学習することができ、鑑賞教材で小編成から大編成の合奏、総合芸術系のものへと系統立てて取り上げられており、学習が進めやすくなっています。

観点④については、教育芸術社の音楽1の19ページと、教育出版の音楽

2・3上の23ページをご覧ください。教育芸術社では、「学びのコンパス」として、楽曲の構成や表現の工夫等を自分たちで気づき、表現につなげられるよう工夫されています。目標が提示されていてヒントも多く、分かりやすく整理されています。話し合い活動が設定され、自分の考えを広げたり深めたりできるようになっており、教育出版と比べて評価が高かったところです。

続いて、観点⑤です。教育芸術社の10ページをご覧ください。教育芸術社では、各教材において題材目標と「音楽を形づくっている要素」が表示されており、この曲でどの要素に注目して学習するのかについて、指導者も生徒も分かりやすくなっています。

教育芸術社2・3上の44ページ、教育出版2・3上の42ページをご覧ください。教育芸術社ではオーケストラの全体像と個々の楽器を一緒に確認できますが、教育出版では個々の楽器は巻末にまとめてあるので、ページを行ったり来たりして使いづらいと思います。こうしたことから、教育芸術社が評価されました。

観点⑥です。教育芸術社では、著作権、郷土文化について3学年を通して扱っており、音楽1の62ページには郷土に伝わる民謡として江州音頭が掲載されています。

また、全体を見ると、この題材で何を学ぶのか、そのポイントが分かりやすく、教育効果が高いと評価されています。

このような理由から、教育芸術社が選定されています。

【質問意見等】

○圓山委員

表紙のイラストについて、はつらつとしていて若さを感じた。ページをめくると中学生に夢を与えるような憧れの方が載っていたり、写真が新しいのかとても見やすかったり、説明にもあったとおりオーケストラの全体の配置と楽器がリンクして分かりやすく掲載されていたり、工夫があってとても良いと感じた。

【採 決】

音楽一般は、教育芸術社の「中学生の音楽」を採択することに決定
(全員賛成)

○音楽器楽

【事務局説明】

○学校教育課

音楽器楽は、2社の教科用図書があります。現行は、「教育出版」です。協議会では、「教育芸術社」が選定されました。

それでは、選定理由を述べさせていただきます。

観点①です。両社とも創意工夫を生かした音楽表現をするための必要な技能を身につけることができるように、どの楽器においても「各部の名称」、「姿勢と構え方」、「運指や奏法」が丁寧に説明されています。活用する機会が多いリコーダーについては、教育芸術社では生徒に身近な練習曲が使われているので取り組みやすく、段階的に技能の習得を図れるようになっています。

観点②については、教育芸術社の63ページから67ページまで、教育出版の102ページをご覧ください。教育芸術社は、教育出版に比べて打楽器についての内容が豊富です。教育芸術社の86ページにはボディパーカッション、88ページには拍手で演奏するクラッピングといったように、曲のバリエーションも多く、リズムアンサンブルの楽譜も充実しています。対して、教育出版は、打楽器の掲載が少なく太鼓の取扱いのみで、90ページのようにアンサンブルの楽譜も和太鼓だけになっています。また、教育芸術社は、楽器の種類ごとの分量が適切だと考えます。

観点④です。教育芸術社の43ページの箏（こと）の創作はとても取り組みやすく、個人の発想を生かして短い旋律を創ることができます。二次元コードを読み取ってワークシートを印刷し、活用することもできるようになっています。また、17ページや81ページのように、「学びのコンパス」のコーナーがあり、生徒自ら創意工夫して表現したり、他者と対話して自分の考えを深めたりできるように工夫されています。

観点⑤です。教育芸術社では、楽器の写真を種類ごとに示すなどの工夫があり、学習しやすくなっています。25ページ、59ページ、104ページ、105ページでご確認ください。また、100ページから103ページまでのように、リコーダーの運指表とコードネーム表が見開きで大きく掲載され、見やすくなっています。一方で、教育出版社の教科書では、巻末に折り込みページでの掲載となっています。折り込みは、机からはみ出しやすく、破れてしまう可能性もあります。

このようなことから、教育芸術社が選定されています

【質問意見等】

○重森委員

音楽一般で圓山委員がおっしゃったように、教育芸術社は、写真が新しい感じがする。

○圓山委員

自分が中学生の時は、手拍子で音楽を楽しむというような授業はなかった気がする。こんなことも教えてもらえるのかと嬉しく思った。

また、リコーダーにこれほど多くの種類があるのを初めて知った。子どもたちにとっても、勉強になると思う。

【採 決】

音楽器楽は、教育芸術社の「中学生の器楽」を採択することに決定
(全員賛成)

(1時間昼休憩)

○美術

【事務局説明】

○学校教育課

美術は、3社の教科用図書があります。現行は、「日本文教出版」です。協議会では、「光村図書」が選定されました。

それでは、選定理由を述べさせていただきます。

観点別に説明いたします。

観点①、②、④、⑥については、3社ともA評価でした。それぞれ優れていた点について説明いたします。

観点①です。光村図書の美術1の16ページをご覧ください。右上段に目標が示されています。身につけたい力を、生徒に分かりやすい言葉で3つの目標として提示しています。導入時だけでなく、途中のページでも表示され、いつでも振り返りができるようになっています。3社とも、絵を描くだけ、立体をつくるだけの活動ではなく、生徒自らが題材の目標を見失わず、身に付けるべき資質・能力を獲得できるように工夫されています。

次に観点②です。開隆堂の美術1の15ページをご覧ください。上段の「いつものあの人」を見ると、小学校から中学校に進学してこれから本格的な思春期に突入していく前の少しあどけない生徒の内面が表現されています。また、美術2・3の16ページをご覧ください。下段の「私を包む音楽」では、3年間で学んだ知識や技能を使いながら、巧みな構成で深い自己の内面を表現しています。こうした表現は、1年生でいきなりできるものではなく、発達段階に応じた題材配列で適切な指導を経る中で達成できる表現です。このように、適切な題材配列が3社ともなされています。

次に、観点④です。日本文教出版の美術1の61ページをご覧ください。生徒の発想・構想を引き出すために、マッピングやブレインストーミング等のシンキングツールを活用した言語活動が、3社とも提示されています。

次に、観点⑥です。光村図書2・3の102ページをご覧ください。中ほどに滋賀県を代表する信楽焼があります。105ページには、アール・ヴリュッド作家として有名な滋賀県の澤田真一さんが紹介されています。3社とも、地元ゆかりのある作品や作家、トピック等を扱っています。

次に、観点③です。3社ともSDGsと絡めながら、環境問題や平和問題等の様々な現代的な課題が扱われています。光村図書2・3の72ページをご覧

ください。「みんなの工夫」というコーナーが設けられ、制作過程が大変詳しく示され、生徒の自主的・自発的な学習を促す工夫が素晴らしいです。88ページをご覧ください。下にあるように、この題材と道徳科とのつながりも示されています。日本文教出版の美術1の18ページをご覧ください。下にあるように、道徳科とのつながりが提示されています。このような他教科との関連についての表示が、開隆堂には不足しています。

最後に、観点⑤です。各社とも巻末に資料が用意されていますが、光村図書だけは別冊があります。3年間使用できる充実した資料があり、様々な技法がまとめられています。さらに、光村図書2・3の27ページから42ページまでをご覧ください。日本美術をじっくりと本物に近い感覚で鑑賞できるように、このように和紙のような風合いの用紙が扱われ、他社にない造本の工夫がなされています。

このようなことから、光村図書が選定されています。

【質問意見等】

○大更委員

光村図書の別冊については、制作する上での手本として活用でき、とても良いと思った。制作の場において、傍らに置いておけば参考になる。

美術は、良い作品を実際に目にすることが大事なので、各社とも工夫を凝らした見せ方をしているのは素晴らしいと感じた。これがあるのとないのでは、大きな違いになると思う。

【採 決】

美術は、光村図書出版の「美術」を採択することに決定
(全員賛成)

○保健体育

【事務局説明】

○学校教育課

保健体育は、4社の教科用図書があります。現行は、「大修館」です。協議会においても、「大修館」が選定されました。

それでは、選定理由を述べさせていただきます。

出版社ごとに説明いたします。

はじめに、東京書籍です。117ページをご覧ください。「巻末スキルブック」があり、実習、ロールプレイ、日常生活での実践等が掲載されています。各章のはじめのページに二次元コードを配置し、小学校時の振り返りや、この章で学習する内容の関連動画が視聴できるなどの工夫があります。14ページをご覧ください。各単元の学習課題が、生徒に課題発見や課題解決を促すよ

うに設定されています。こうしたことから、観点②及び観点④をAとしています。

次に、大日本図書です。16ページをご覧ください。左ページに本文、右ページに資料という構成になっており、生徒にとっては使いやすいレイアウトになっています。50ページ、51ページをご覧ください。章末には、学んだ内容をまとめ、学びが更に深まる資料が掲載されています。こうしたことから、観点②及び⑤をAとしています。

次に、大修館です。22ページをご覧ください。文字の大きさや行間が適切であり、重要語句は太字にするだけでなくフォントも変えてあるので、分かりやすく見やすい構成となっています。本文と資料も、分かりやすくすっきりとレイアウトされています。23ページの下にある二次元コードの「保体クイズ」は、授業で学んだことを振り返る一問一答のクイズ形式となっており、自主的・自発的な学習に結びつきます。60ページをご覧ください。章末には、この章で学んだ内容や関連した内容がまとめてあり、生徒が学んだ内容を振り返りやすいように工夫されています。85ページをご覧ください。「きょうの学習」のところが「どうすればがんを予防できるのでしょうか」のように疑問形になっており、生徒自身が「めあて」を立て、学習を進められるよう工夫されています。こうしたことから、観点②、③、④、⑤をAとしています。

最後に、学研です。22ページをご覧ください。自ら探求できる課題が設定されており、自主的・自発的な学習につながられる構成となっています。30ページをご覧ください。学習課題を「～でしょうか」という疑問形で示しており、生徒自身が学習の「めあて」を立て、学習を進められるよう工夫されています。また、31ページの上の「エクササイズ」や、下の「学びを生かす」という部分で、自分で考えたり仲間と話し合ったりする課題が用意されており、グループ活動につながりやすい構成となっています。こうしたことから、観点③、④をAとしています。

全体を評価的に総合して、大修館が選定されています。

【質問意見等】

○大更委員

大修館は、フォントが良いためか、読みやすい。認識しやすい色彩と文字フォントになっていると思う。また、「今日の学習のキーワードは何か」、「今日は何を学ぶのか」が示されており分かりやすい。東京書籍も分かりやすいが、大修館書店がより見やすく良いと感じた。

○重森委員

大修館は、写真が多すぎず、ちょうど良い。あまりに多いと情報が多すぎて疲れてしまうが、ちょうど良いと感じた。

○圓山委員

いずれの教科書も見やすいが、特に大修館は、紙の色が抑えめであることも

良いのか、絵の発色も良く、より読みやすい。

また、ストレスの対処の仕方やリラクゼーションの取り方ということで、いずれの教科書も少しずつ書かれているが、自分に何かあったときに対処できるように丁寧に書かれていて良いと感じた。

【採 決】

保健体育は、大修館書店の「最新 中学校保健体育」を採択することに決定
(全員賛成)

○技術

【事務局説明】

○学校教育課

技術科は、3社の教科用図書があります。現行は、「開隆堂」です。協議会では、「東京書籍」が選定されました。

それでは、選定理由を述べさせていただきます。

評価に差があった観点についてご説明します。

観点①です。東京書籍、開隆堂は、発達段階に応じた適切な内容になっています。教育図書の48ページをご覧ください。はじめに扱う製図例としては難易度が高いです。194ページをご覧ください。双方向性コンテンツの題材も難しい内容と感じます。

続いて、観点②です。3社とも、1章は技術の原理法則について、2章は技術による問題解決について、3章は社会の発展や未来の技術について学ぶという構成になっています。東京書籍の28ページ、教育図書の16ページ、開隆堂の28ページをご覧ください。学習のはじめに「めあて」や「目標」を確認しますが、東京書籍では、「レッツスタート」として疑問を投げかけ、自ら考える意欲を高める工夫があります。次に、東京書籍の194ページ、教育図書の171ページ、開隆堂の208ページをご覧ください。各章末には、まとめのページがあります。東京書籍と開隆堂は、図や写真を散りばめながら学習を振り返りやすい内容になっています。

続いて、観点⑤です。3社とも二次元コードが採用され、動画や説明にリンクがされています。YouTubeを経由するなど、各社とも配置に工夫がされています。各社とも、表紙をめくったページから、東京書籍は25ページまで、教育図書は13ページまで、開隆堂は25ページまでをご覧ください。技術の授業を始めるに当たってのガイダンスのページです。東京書籍は、解説が簡潔にまとめられ、資料や写真なども豊富に掲載されており、イメージしやすくなっています。レイアウトも工夫されており、17ページのように興味を引くものもあり、他社と比べて興味を持って学習をスタートしやすいと感じます。

次に、東京書籍の142ページ、教育図書の121ページ、開隆堂の164ページをご覧ください。様々な発電方法について書かれています。東京書籍は、発電方法による違いを、数値や図で比較しやすくまとめられており、生徒の理解がスムーズになり、自ら課題が発見しやすくなっています。

このようなことから、東京書籍が選定されています。

【質問意見等】

○大更委員

東京書籍は、開隆堂に比べてフォントが少し小さいものも使われているにもかかわらず、決して見づらいわけではなく、大きいフォントも効果的に使って見やすくしている。余裕を持った挿絵の入れ方も効果的である。

○西田委員

東京書籍は、他に比べ太字と細字のバランスと、大きな字と小さな字のバランスが心地よく感じた。他社は文字のインパクトが強く、やや目が疲れるように感じた。

【採 決】

技術は、東京書籍の「新編 新しい技術・家庭 技術分野」を採択することに決定（全員賛成）

○家庭

【事務局説明】

○学校教育課

家庭科は、3社の教科用図書があります。現行は、「開隆堂」です。協議会では、「開隆堂」が選定されました。

それでは、選定理由を述べさせていただきます。

評価に差があった観点を中心にご説明します。

観点①です。各社とも学習指導要領に基づき、中学生の発達段階に即応するように配慮されていました。開隆堂の21ページでは「自己肯定感」を、29ページでは「ウェルビーイング」を取り上げています。多感な時期にある生徒が自分を大切に、心身ともに健康に暮らすことについて考える内容になっています。

観点③です。昨今の変化の激しい社会状況の中で、各社とも、生徒が現代的な課題に向き合っ、自ら学習できるように工夫されていました。どの教科書も調理例のページが豊富にありますが、開隆堂の156ページをご覧ください。加工食品を活用した簡単な調理例や、右のページには災害時にも生かせるビニール袋を活用した調理例を取り上げています。次に、東京書籍の154ページ、教育図書の188ページ、開隆堂の220ページをご覧ください。いず

れも防災に関連し、非常時に使用できる袋の製作例があります。昨今の度重なる災害の状況から、家庭科において防災意識を高める学習は、大切であります。開隆堂では、246ページから255ページまでと、大変充実した内容になっています。他社は、やや少なめになっています。

それぞれ表紙をめくって、東京書籍の1ページ、教育図書の本4ページ、開隆堂の1ページをご覧ください。どの教科書も案内役として4人が登場していますが、東京書籍と教育図書は、制服を着た、見た目の共通点の多い4人が登場します。一方、開隆堂は、服装が様々で、肌の色やジェンダーへの配慮がなされています。挿絵や写真においても、他の2社よりも多様性に配慮したものが多く見られると感じます。

観点⑤です。各社とも写真や資料が豊富ですが、文字やグラフを比較すると、開隆堂が見やすいと判断しました。東京書籍の59ページ、教育図書の本101ページ、開隆堂の本125ページをご覧ください。東京書籍の円グラフをご覧ください。グラフの中の数字は、白抜きになっています。めくって61ページにも円グラフがありますが、境界線が白く、少し分かりにくいです。教育図書の本の円グラフの配色はピンクと茶色で、茶色地に黒い文字は少し見にくいと感じます。開隆堂の本の円グラフは、薄い色の上に黒い文字、また、黒の境界線も明瞭です。文字を比較してみますと、東京書籍の本の文字は線がやや細く、教育図書の本の重要語句が青色になっています。開隆堂については、文字が太く鮮明です。配色について、教育図書は、全体的に濃い色彩であり色の種類も多いので、少し刺激が強いように感じます。東京書籍は淡い優しい色合いですが、文字の見やすさと合わせると、開隆堂の配色や文字が一番見やすいと感じます。

このようなことから、開隆堂が選定されています。

【質問意見等】

○圓山委員

私は料理に興味があるので、そちらに目が行くのだが、東京書籍が一番おいしそうに見えた。

開隆堂は、社会問題につながる内容が載っていて、学びにつながると感じた。

○西田委員

いずれも内容が充実していて素晴らしいが、開隆堂の本のエンジンの切り方のページが実物大で載っていて、子どもたちが実践する際に非常に参考になるのではないかと感じた。

【採 決】

家庭は、開隆堂出版の「技術・家庭 家庭分野」を採択することに決定
(全員賛成)

○英語

【事務局説明】

○学校教育課

英語は、6社の教科用図書があります。現行は、「東京書籍」です。協議会では、「東京書籍」が選定されました。

それでは、選定理由を述べさせていただきます。

どの教科書も、学年の発達段階に配慮しつつ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能5領域をバランスよく総合的に育成するための言語活動が工夫して配置されていました。

東京書籍1年の19ページをご覧ください。授業においては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況等を設定し、必然性のある言語活動を仕組んでいくことが大切です。東京書籍では、「GOAL」として単元の目標が「～できる」の形で示されており、生徒がこの単元で何ができるようになるかという良のかが明確になっています。26ページをご覧ください。単元の終末では、目的、場面、状況等が示された言語活動に取り組むことができます。さらに、6ページをご覧ください。Unit 0から始まり、また、Unit 1からUnit 4までは、12ページの上段のように小学校で学習内容を活用して英語で伝え合う活動が設けられており、小学校からの接続が重視されています。

次に、同じく東京書籍で、2年の表紙をめくっていただくと、Unitごとの学習テーマが明確であることが分かります。単元の学習の流れがシンプルで、スモールステップで繰り返し活動に取り組むことができるようになっていきます。2年の40ページをご覧ください。このようなページは、学期に1回程度あり、学習したことを生かして言語活動を行うようにできている点も高評価となりました。さらに、2年の9ページをご覧ください。単元の導入でレビュー動画を視聴することで、目的や場面、状況等を把握しやすくなり、学習意欲が高まり、自ら課題を設定し、解決するような学習につながると考えます。2年の12ページ、13ページをご覧ください。こちらでは、まとまった分量の英文を読んで考え、表現する力が身に付けられるよう、スモールステップの活動が用意されています。生徒が「話そう」と思える仕組みであると感じられます。

開隆堂と三省堂については、小学校の接続を意識したページがあること、英語の学習にとどまらず、地球に住む人間として何ができるかを考えるように工夫されていることや、登場人物に欧米以外の留学生を扱ったり、いろいろな国の文化を題材として扱ったりしているページが複数あり、外国籍の生徒が多く在籍する本採択地域においては、相互理解につながることから、観点①、③、⑥が東京書籍と同じくA評価となりました。

ただ、開隆堂1年の42ページをご覧ください。ポスターセッション等の体験的な学習が多くある反面、情報が多すぎることで、生徒自らが課題を設定し解決しようとする機会が少なくなることが懸念されます。

三省堂3年の62ページ、76ページをご覧ください。漫画の翻訳やCMづくりなど、興味を引きやすい題材である反面、日本語でも考えるのが難しい内容があり、ややハードルが高いと思われます。

教育出版3年の46ページをご覧ください。CMづくりなど体験的な学習が多く、良い場面設定をしている部分もありますが、問題解決を意識した活動につなげるという面や、コミュニケーションを充実させるしかけ等が弱いと感じました。

光村図書2年の62ページをご覧ください。地域に暮らす外国人に向けて防災ポスターを作成する活動が掲載されています。良い題材ではありますが、内容の配列面で、2年生で学習する接続詞と不定詞が複数単元にまたがり、生徒にとっては理解しづらいと考えます。

啓林館は、6社の中で唯一、接続詞の「when」が1年生に配列されており、文の構造理解が不十分な1年生が、疑問詞の「when」と混同する可能性があります。さらに、「書くこと」への支援が少なく、英語が苦手な生徒への配慮が必要となります。

最後に、学習者用デジタル教科書については、各社大きな差はありませんでした。

このようなことから、東京書籍が選定されています。

【質問意見等】

○大更委員

東京書籍は、旅先でのこと等、トピックで情報がたくさん載っている。他社にもあるかもしれないが、特に多く載っているので、生徒の興味が持続するのに役立つと思う。

【採 決】

英語は、東京書籍の「NEW HORIZON English Course」を採択することに決定
(全員賛成)

(5分休憩)

◎小学校特別支援学級教科用図書(新規選定)

【事務局説明】

○学校教育課

知的障害学級の児童は、通常学級の児童と同じ教科書を使用している子もいますし、発達段階や発達特性が様々でありますので、個々の児童に適したものの使用するため、一般の図書も教科用図書として採択しています。

小学校では、昨年度採択された図書は現在のところ供給不能にはなってい

ませんが、採択数が少ない教科については、選択肢が広がるよう学習指導要領の目標や内容にあったもの、子どもたちの発達段階や発達の状況に即したものを選定しました。また、現在採択されている図書との関係性を踏まえながら、採択本にないレベルや分野等に配慮し、多様な子どもに対応でき選択の幅が広がるようにしました。今回は、社会、理科、家庭科、生活科、図工の5教科計6冊が協議会において選定されました。

まず、1教科目は、社会です。「まちのしくみ バックヤード絵ずかん」を選定しました。子どもたちが普段は見ることができない内部の仕事内容について書かれており、仕事のイメージを膨らませやすいと考えました。また、児童が利用したことがある場所について扱われているため、校外学習や家庭で外出をしたときにも話題にできるなど、興味や関心を広げることができるよう工夫されている構成になっています。

2教科目は、理科です。「小学館の図鑑NEO 科学の実験〔新版〕あそび・工作・手品」を選定しました。現在採択されている図書にはない内容で、光・音・温度と熱・力・磁石等、各学年の理科で扱われる内容が幅広く取り上げられ、実験を通して問題を解決する内容になっています。

3教科目は、家庭科です。「家庭科の教科書」と「ただしいもち方の絵本」の2冊を選定しました。

1冊目の「家庭科の教科書」は、食編・衣編・住編で構成され、細かいコンテンツに分けられているため、学習したい項目を重点的に進めることができます。また、学習の「めあて」や「できるようになるまでの所要時間」が記載されているなど、見通しをもって取り組めるような構成になっています。

2冊目は、「ただしいもち方の絵本」です。この図書では、日常生活の様々な場面が網羅され、生活に必要な基礎的な知識と技能及び態度が身につくようにまとめられていると考えます。2冊共に、自立に向けて必要な力を育むために有効な図書であると考えます。

4教科目は、生活科です。「1ねんせいのせいかつえじてん」を選定しました。自分の生活を考えたり、身近な人々、社会や自然と関わったりする場面が多く取り上げられており、多様な学習活動が展開できると考えられます。また、日常生活に必要な内容が細かいコンテンツに分けられているため、学習したい項目を重点的に進めることができる良さがあると考えます。

5教科目は、図工です。選定されたのは、「作ってみよう！リサイクル工作68」です。身近にある材料を使って、楽しみながら表現活動や造形活動ができるように工夫されています。主として使う材料ごとに構成されているため、子どもたち自身が何を作るか選びやすく、障害の状況や発達段階に合わせて活用できる内容です。

このようなことから、6冊が選定されました。

○特別支援学級 小学校3～6年 社会

【質問意見等】

○圓山委員

背景と説明の文字が重なっているせいか、少し見にくいと感じた。

○学校教育課

この図書は、バックヤードということで、普段見られない所を学べるということで選ばれている。

○重森委員

そもそも論の質問になるが、一般図書は、毎年採択すると思うが、この図書も2016年に初版が発行されていて8年目になる。8年間採択されていなかったものが、今年になって採択されるというのは、どういう経緯なのか。去年の採択と今年の採択の間に発刊されたものであれば分かるが、経緯を教えてください。

○学校教育課

一般図書については、膨大な量の書籍がある。また、対象となる教科についても、補充したい教科が出てきた場合に、「では、探してこよう」となったときに上がってくる。例えば、一度採択したものの、その後廃版になって、もう一度見つけ出さなければならなくなったというような作業の中での話になる。毎年あらゆる本の中から「これがふさわしい」といった見つけ方はできないので、「今年はこの教科に絞って重点的に探そう」といった作業になる。

○重森委員

候補に上がるのは、特別支援学級の先生方からの候補になるのか。

○学校教育課

調査員2名と部長1名の3名で調査研究されている。

○大更委員

初版なので何とも言えないが、2版、3版となっていれば、ある程度需要があるということかと思う。

○学校教育課

今回上がっている図書については、今のところ廃版の予定がないものとなっている。

【採 決】

特別支援学級 小学校3～6年 社会は、東京書籍の「まちのしくみ バックヤード絵ずかん」を採択することに決定
(全員賛成)

○特別支援学級 小学校3～6年 理科

【質問意見等】

○西田委員

DVDが付録されているが、これも活用して学習されるのか。

○学校教育課

活用できる。

【採 決】

特別支援学級 小学校3～6年 理科は、小学館の「小学館の図鑑NEO 科学の実験〔新版〕あそび・工作・手品」を採択することに決定

(全員賛成)

○特別支援学級 小学校5・6年 家庭

【質問意見等】

○大更委員

通常の家理科の教科書より図も大きく、絵も多く、順序立てて書かれていることから、特別支援学級の家理科の学習に役立つと思う。

【採 決】

特別支援学級 小学校5・6年 家庭は、山と溪谷社の「家庭科の教科書 小学校低学年～高学年用」を採択することに決定

(全員賛成)

○特別支援学級 小学校5・6年 家庭

【質問意見等】

○圓山委員

丁寧にならされていて、例えば傘の持ち方など、こんなことも載っているのかと驚き、とても良いと思う。

【採 決】

特別支援学級 小学校5・6年 家庭は、金の星社の「ただしいもち方の絵本」を採択することに決定

(全員賛成)

○特別支援学級 小学校1・2年 生活

【質問意見等】

○重森委員

良い絵本を見つけてきてくれたと思う。1年生、2年生のスタートにふさわ

しい充実した内容であると思う。

【採 決】

特別支援学級 小学校1・2年 生活は、金の星社の「1ねんせいのせいかつえじてん」を採択することに決定
(全員賛成)

○特別支援学級 小学校1～6年 図画工作

【質問意見等】

○圓山委員

身近な材料でのリサイクルをテーマにしており、各ページ作ってみたいくなるような内容だと思う。

【採 決】

特別支援学級 小学校1～6年 図画工作は、成美堂出版の「作ってみよう！リサイクル工作68」を採択することに決定
(全員賛成)

◎中学校特別支援学級教科用図書（新規選定）

○特別支援学級 中学校1～3年 理科

【事務局説明】

○学校教育課

中学校の特別支援学級教科書については、理科と道徳科の調査研究が進められ、協議会で選定いただきました。候補となる一般図書が複数ありましたので、比較検討した結果を説明させていただきます。

それでは、理科から説明させていただきます。理科では、「野菜づくり大百科」、「野菜をそだてる12か月」、「野菜観察便利帳」の3冊について調査研究が行われ、「野菜づくり大百科」が選定されました。理由として、この「野菜づくり大百科」は、野菜ごとにページが設けてあり、各野菜には栽培カレンダーを示し、栽培手順の大事なポイントを解説しているため、初めて栽培に取り組む生徒にも分かりやすい配列になっています。また、苗作りから支柱の立て方などが具体的にイラストで分かりやすく示されており、育てるポイントやトラブルの回避方法、おいしい調理方法まで掲載されています。分量もAB版544ページで127種の野菜が紹介されており、内容がとても充実しています。漢字にルビが振られていないため、漢字が苦手な生徒に対しては配慮が必要ですが、写真やイラストが豊富で、巻末には用語解説と五十音順で引ける

野菜の索引もついており、使いやすい工夫がされています。野菜の栽培は、学校だけでなく、家庭で取り組んだり、将来仕事として取り組んだりすることも少なくありません。その際、栽培方法が写真やイラスト等を使い、詳しく説明されており、調理方法なども掲載されているこの図書は、学校だけでなく家庭等でも活用できると考えられます。これは、他の2冊にない特徴です。このようなことから、野菜づくり大百科が選定されました。

【質問意見等】

○大更委員

野菜にしても生きものにしても、「育てる」というのは大事な学びなので、このような詳しい本は有効で、通常教科書に加えるのにふさわしいと思う。

【採 決】

特別支援学級 中学校1～3年 理科は、家の光協会の「決定版 野菜づくり大百科」を採択することに決定
(全員賛成)

○特別支援学級 中学校1～3年 道徳

【事務局説明】

○学校教育課

道徳科は、「くらしに役立つソーシャルスキル」、「SST（ソーシャルスキルトレーニング）ワークシート（思春期編）」、「子どものためのソーシャルスキルブック」の3冊について調査研究が行われ、「くらしに役立つソーシャルスキル」が選定されました。理由として、『『自分』について考えよう』、「相手とのかかわりについて考えよう」、「将来について考えよう」の3つのテーマに分けて構成されており、身近な問題を取り上げながら、生活する上で人との関わりの基礎的・基本的なことがらを身に着けることができるよう配慮されています。目次も、タイトルで具体的に学ぶ内容が分かるなど、学びやすい構成になっています。どの生徒にも身近で大切な学習課題が取り扱われており、生徒の実態に合わせて学習や指導が効果的に進められ、日常生活に活かしていきやすくなっています。

このようなことから、くらしに役立つソーシャルスキルが選定されました。

【質問意見等】

○西田委員

くらしに役立つソーシャルスキルは、難しすぎず簡単すぎず、ちょうど良い程度であった。もう一冊は難しすぎたのと、もう一冊は簡単すぎた。

【採 決】

特別支援学級 中学校1～3年 道徳は、東洋館の「くらしに役立つ ソーシャルスキル」を採択することに決定

(全員賛成)

(その他の意見として)

○重森委員

中学校の保健体育について、一般図書を使っていないようだが、通常学級と同じものを使用しているということか。

○学校教育課

保健体育の場合は、内容として写真や図等が多いことから、通常学級で使用している教科書を使用していることが多いので、今回対象とならなかった。

○重森委員

くらしに役立つシリーズは、もともとできた経緯として、文部科学省の著作教科書のない知的障がい的高等部で使用するために作られたと聞いている。中学校でも、これだけ採択されているのかと思いながら、見せていただいた。

令和3年度から、中学部については、文部科学省の著作教科書が星4だけであつたところに星5が加わったということで、特別支援学級において特別支援学校の教育課程に替えることも可能であるため、その辺りも今後の対象として調査研究していただけたらと思う。

また、特別支援学校の図書目録も見たが、令和6年4月の目録に、中学部で星4と星5の「職業・家庭」の著作教科書が入ったようだ。中学校の教科名の「技術・家庭」ではないが、「職業・家庭」の中で新しいものが出てきているので、ぜひ調査研究の対象にさせていただいたらと思う。

○学校教育課

今後検討させていただく。

8. その他

9. 閉会

教育長が8月（第1回）定例会の閉会を宣言